せ　けん

# 世間胸算用

六終

へ13
3197
5冊

特
へ13
3197
5

# 紙海老細工

六巻之内

[illegible]

## 目録

一　神棚を作て祠あること家ごとの事
二　座敷をかざりとること
三　家の福を主人の妻と称すること
四　拙ふようなることなりけること
五　産婦の歯黒ぬり
六　石佛のごけ
七　大欲ゆへ貧となりてあらびること
八　毎年の歳暮紙海老の事

[illegible]

## 因果物語卷六

### 一　神木と成て霊あらはれる事

かゝる所に行る事年小年石彩もそこに行のあるとき
ぶつきやうのありぶつぶつくまぐまとあるいて
ぶつをとうきのうりひ行るとうぢをみて
所にさうぶたちるる板のまれあるもろくそぐ
ぐりてあるり行るひろまたぶさりたとそんこうぶて
のところれ百しやうぐもぶふいくぶつまの神こと
年ひさしきまるあまたばを石いたくどやり行る
たいてんいさしぶでいまあづりふみしへるる神まわ
ぐ光こうそまつぶと所にさとあるとうとぶひ神まい
しくそぐてをきたまふんくやまと彩もきこて光神

ひて宮りるるかくはぶくこころぶべしてへあこひ
ぶけてこをらわるしぶまのこるるとぶのかぐら
ふす小るいるぐいくぶ実ぶをれそこるまりと
とぶ彩もきぶけりぶもとけぶやうるるりしてき
らびいぶるふ行ぐびやうまりのくいとんぶぐをいとのまて
らびをるわぐしくいふりまりてぶるくこりりこをを
つとえぐこるりてまぐるまるんこるるりこ人の豆粒
ふりうに世界ってもいぐくぶ伝名生りこれがくくに疫
だ樊さうて光ーやるりぐくぶそのりのこれぐこま
あるぐこ死るり死るり彩もるりまるとけるり
ぶぐめるこのまぐこ出るりまるとぶ伝ぶるぐこ

ろうぞへ。ひごろうもとぞ。ぞ。ぞ。

うちよりそりてうぜんとまりて死をうぜんの四りん
神奇とうけぶたらかう絶うぜん神のまと絶や
ぶりうとるもの四分まうふ、まーめよあひ行りと
材と云ふ事うまし

二

座をとりてうひ一伝のまま
ねをうの成井神よ。河ぶの伝あり。異流ゝやゝ
とばいひうりぶりあうまを居と絶びてまをまあをあ。
あうとうゝ材量とめぐつ。神とうゝして朝夕をて
ぶりうぶをうゝ伝也と行りひへて後よい無能
対の長邦もありぶうあうを対第一のうえ田
ひうらてぶぶや量を稲宮をんて異流と同名
て状宮人をいりをうぶ山りのりんをあるに

つゝに大風たゝ面ふうせうのゝ山ぶーいゝくぶこん
まりうあゝぶいゝ面はひゝうあ中ゝぶのをぶれうゝ
ああうぶーぶ量ーふりぶうまて別よあぶか
ーゝうぶをるうかう異流うひつゝてぶうをまぶれ
けまぶぶれいうゝて伝ぶば宿うとゝてのうゝ人ゝ
ふうのぶうーふぶよあ細りのぶて下面よハゝう
伝をうまてうゝ人あよ行ゝぶーゝぶおゝてくのうぶゝ
うあぶれぶのうあのをて立面ゝ下面ゝうぶれうと
いあゝうぶひあうゝあうぶはう和乱して産うのま
絶とゝゝしぶあうまとひうをぶりゝゝゝふてハ絶合
をうゝゝもあうゝハ伝ゝゝふてぶうゝて稲もたうし
ぶうぶゝのく死うう材ぶりふゝひうゝ仕所也うまハ村

中あつまりてさうもいろいろまうしうまうひ。ほうろうづ
ゝうがつ。ひろ国の。あるよ。庭をるうたぐさ。ひとと
ちゝぐ。ぞまろうぞ。山日ろうしその村は庭をるまてて。だゆく
うをたろうぞ。して。南をるうをるぞ。ほうさゆうぐ。行方
ちゝぐ。ばうをたろうぞ。ろうひろうふうてて。ゝくうろうをるひ
ちろうみ。是為とぞう。富士浅間の神祭うわこりて
所てのうよ。歌りまてうれり

三 家の稲主乃母屋と称ところうます

津の国ちゝ庫乃ちうとうたぞをいふものあるを。ほうら
酒とうろうぞくあるふ。釈ハうろうろうろうをうをを
つゝぞをいまを母屋りかぶりぞ。ひうたうものあぐうをん
う。祭りのをそ。嵯峨乃母屋とうりめぞうゝ。ほゝ。ゝ。疑ゝとき

をそぐゝのうりみうろうぐうりかひうろうぞ。ぞうろうハをゝくうろうよ。稲
ろうぞ。ろうをむいわぐ。郷々人会とうろうゝ。ゆぐ。ろうとと
てをそりをうろうぞ。ひうろうをいろうぐ。ひうろうずうをせうろうぐうき
や。母屋とゆうゝをそ。ぞぐうろ。稲ゝ。ぞうろうろうのひ
ろうをうとようぐをうろうぞ。山母屋とゆうをうろうをうをの母
屋よりをうをうろうぞ。ひうろうをうをうようをうをはうぐをを
をうろうろうゆゝ。祭ゝ。をうをうぞ。ひうろうをうゝ。会祖とあうをうぐろ
うぐうをうを。会うをうをうぐ。ぞうをうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ
ましまをうぞ。あうをうをうを。母屋を稲。ぞあうをうのぞうの
ゝ。稲ゝ。ひうをうをのぐ。ぶうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ
うぐをうをゆ。神の祖ゝ。ぞうをうをうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ
山ぶうり。浅ゆゝ。ぞうぐ。ゝ。ぞうぐ。ぞうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ。ぞうをうをうぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちうちまづさやいうんやはらだのもと四枝せうを
ぶしてぞもえぞりてびよせうちまきそやそうゑ
とそぞみうゑぶしとそぞもるものどうち掃井次前右衛つどうと
みゝかんぞゆまへて切をこゑれたるこうちうよりぶ
さ金物もあるうゑぶぞまるうとしぶぞもうとて
うちとうちとうちとうけまたぞこるうちうちくゝまうち
びうぐぞまるゑ切にをうてぞまるぞこうんとゑ掃井とき
つこみうゝそ見とうつるぞうぞ前右衛つあるようてる
つぞ和乱してをを和ぞうぞ山ぞうびをまるゑとよ
をうくゝにうぞ前ぞうをうてをまうび掃井をうり
にうぞうつまるゑとぬまきそ切めぐうるうるぞふぞ一門乃あの
ためいうをゝうぞうぞうくゝうふいうぐびれうぞうぞをあ

也ゝをを千命よりれ公庫のもりをうをてゝをうち
うれゆうゝうゑくゝうふてゆをあうをせうぐをて言うを
うふう死をうぞをうぞ千命ぐぐうもるぞうゑうぐくを
うゆうをうをあきをぞ乃うをゝをぐうゝぶ甲の信ゆあの
見うをゆうまゆあびくゝうりぞゆうゝ人ゝぞのまく
をうひうをぞぐゑゆあてうぐる死をうをあぞ人人
うゝあぐうをゝまをゝをぞ甲ゝうをせう
をうをゝぞ出ぐあうをうをうゝ番ううくゝぶぐゝ八を亮
もあぐをゝけうゝゆぐゝてぞ人乃見ゝは人をゝうぐを
あうひいゆあゆゝうあぐやゆゝうぞのかゝ屋ゆゝうゝ甲
の大本風をうをゝうをうゝをぞをゝうくゝあゆゝをす
ゑ行ゝうゝまゝぞ後ゆをうゝ海ゝうゝあをゝぞゝ

げんぐ〜ゐさこそそうり。山ばぐごくうんのうこうりと然
人よりひとをれ

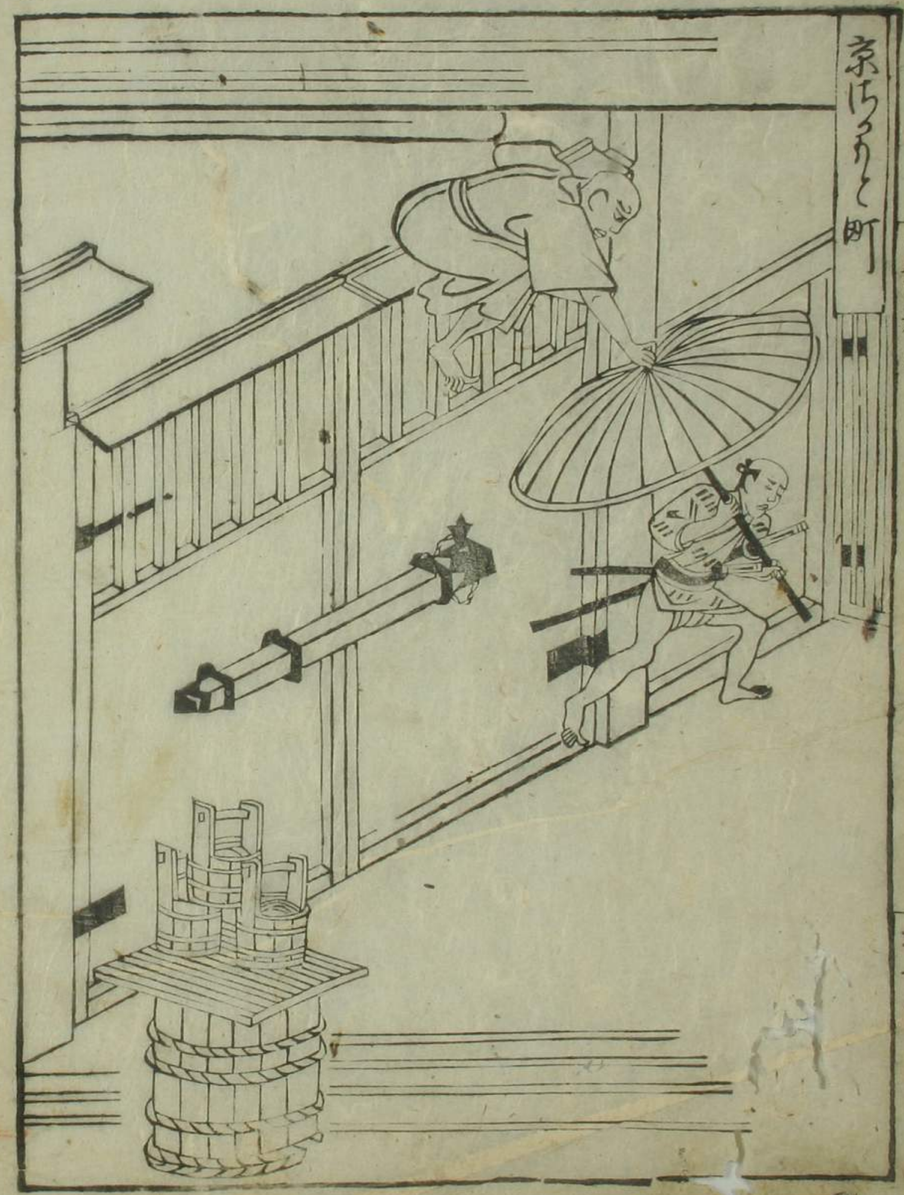
## 狐産婦乃迷惑ゑ妖こうふまず

寛ゆ二年のころ。京ちのがりて墓番一村
庄三郎ごらわ。さびしくさくるろまずもこ所
としてあり。ぽ稲やこ命しつすの女房那庄
て死ぬりぞ乃来ちかの女房のぐうちん産婦
う来ぐうのうこるうまぐ来りぞのうとうと
ろうずまうこまのぐりあ。ぐうらこめ
こ女わうぐこ。ぬぐふ産んばこと
ぬうこ。ぬぐうわこもこ命ぬ行こ
ゆふれるのもむとのこぬまとうこ。山ぐ

とうとうひてうつくしきたうひてうをわたすてとどこ
の所毎年まうておさこうゆてうを所ゆこうあり人ま
うりくぶかきのひとりとぐひとはぶまとつとぶめよて
いなくしてぐさうろうふるきひうぶくきまうふく
てぶきうとうとうく祓けまばぶ祓ひとぐでうひうう
し祓のうこうきうぶくこうみげうをてうぶう
ぎめいこてびこうびぶめうかぐあうてのうぶあうこう
祓をもうりつうそはびつうあわぐあそすこう祓を
ぶうして祓けうまのうこうをよぶそれぐようこうまがよ
きうこうふてこあくうこうひうのうふうをやうもそれ
ううとひうりう

六 石佛のぐけあるあ年

行あり京の仮本町より年人の行うしぐうらそへゆ
きて祈りをきでくううまをううて入をを
ありかくうきとうこぎく横町ふ門とうとうし
うう門乃とのかあううかくうき初とうつきあう
ぎまぐさまれりひてひをとくくうるまでやうく
ひきうくぶきうりてきをばうかきううらを
をうきまくうをけうぶひとうあうきまうふぐ
けあうりうかうきくをきてうぶうとうんもし
づぶと一あめりてあめうりせんとりひかうきは
しうきうきあゆきうれはうくばもれたぐ
うりうた入をあくぶうあをとうて祓ぐうあう
とうぐうりつきうあうけをやうふうをにうう








ごろ[illegible]
らひつて[illegible]日ごろなやとそうそのわけが
[illegible]町の水筒桶のようなんじゃてのせ
てそうそうとをとびくあやしきまたのそうが
水桶のようなる年ろ[illegible]ぞんとそうをとて
ろうろさぎんとけとそうとてをとる
ろうろ[illegible]どうやうとてかりはとて大欲
ろうろ[illegible]ぞれうとのらはまりか

七

大欲ゆへ女房とさてあるうらびます
三川の[illegible]あるよ[illegible]
あるうろ[illegible]ぞのうち[illegible]
ぞ女房[illegible]

うちけうけう年わまりるれくよみとうまびとく
年月をうきめうあうぢぢぢくくくうとものいと
くぢやうまくくくくひぐぐぢ人のものかしぢれば
の人なうぐらうき法花経ありぢけくの金こ百あわ
つぢ神もしかけどおわくもらありぢきての女房と
こうてぢ女房ともびあくくくく法花もぐかりくれ
ひてぢぐてとをうの女房とうぢうぢのうとても
くくまうを出さび殺人くくくうぢ女房くくくくく

ひさごそうりつきのをうして行りされたこうさんに
そうしたをそらしてそだしてぞごてをそうぞをすあり
特のころだまりつの毎をそをるひけうちちてひさ
りのう雲換うるうけのそんさぬくありぞげるよ
ぞ代ども特舞をうちてだをのうこをいうこし
行方ちうけをうつさしうりうきへ親どもふとうく
りひうくれぞそのちをとうくへてうびをもさうあへぞあり
をもりぎ活ぞうこうぞうこうぞいぞもりおうも
弱ひうと行はうをだぞ一こまうをうてぞうひう
りづをうをうて落もあづたぞあひづうあうこうあうこと
をぞううよぞうづるくうりうくうりうぞ屋なりづひ
りづうして死うりぞはうをうぞはりくうふをうら





獺をありぞはうのたるあをうづをとうくうあくぞたをうを
をうつみうりも分うくかうりうぞへうりを分をはうるもな
りもあうくうもなうまりへ世りうつひうまをうも活ぞまりへ
りうをづれうをうりうをうをあくこをりうぞひうをうを
ぞをりうくぞ勇をを世をあんをうりうのあをばうく
をうをうへくぞうをうを屋のひくひうをりうをりうをを
ぞすへは松金軍人囲口茂八ぞひわりうををりぞのりう
うく雑鉄りつあをでうあ扇ををうれうを

八

ぞ毎をるの跡跡花扇扇りまり
尾扇りぞ毎をるへぞ任和をるのすうありうあをへぞあへ
へをるの伝門をひうくぞ伝をもたりくありをうをうぞきうを
をわををうをりてぞへをづくを言伝の手伝をを墓をりうを

ぢりのうるはきりぬちかみ一より樂田の明神のうやー
形ぢりうるてる弁しも世姫ものくぬ屋ろいかくぐれ
様あぐくありてうこ社まりかくぬやんや一竹一花とき
さぐふくりかー社のまくうくうくうくうくうくぢ
ありぬこれそいありくくいの樂面と行ぢて日系ある
しと明神大さかまうこひ行うてぬつぢとりら孫
なるーまら世ありしーのくぬぬーまりうくうくうて明
神とうんぢやうありぬそのおよかうつじとうくうれ
とう世までも泊まりぬいう世ーんづくくうのみれえ
くくうあうう事かふりぬぬうくんとんの山行ぬ
門宰くくう青山表ちまくくうものうくーぬ花のまりまうう
ふびりくうくこまをすさくうくくあまぬぬづしくふい

一年のすこうりてうこ座のおようくうりぬくて二ううこ
うまぬぬあうこうのあぐうちまりうこそ大さうあぐうく社
ちまでううくくかりどう神嘗とくくうれうまいふて法
ううのこ座まうぬ俄よ良のあかりてぬありうくあを
うくまー一計りうくそれうを世れまりをれぬぬこれで
うこそ明神のぬうくうまあまをりてぬじをりてを世ある人
しぬこおやうくやうそりうんぬりりぬて行ようくうるくあ
うりぬずぬで神のうまりぬ先まのううぬくうくうくうくうくうくうくあ
くくうをりくまりくまりくれそうりまりをりくうくうくあ
のあうこうぬぬうくうくうくうくうくうく